



美濃路名所ガイド

古い家屋や蔵などが立ち並び、江戸時代の雰囲気が残る四間道や、歴史ある神社など、魅力いっぱい的美濃路界隈。昔の人々に想いを馳せながら、まち歩きをしてみませんか。

④ 五条橋

五条橋は、名古屋城築城と同時に開削された堀川で初めて架けられた橋です。元は清須を流れる五条川に架かっていましたが、「清須越」の際一緒に移されました。その後何度も改築され、現在の橋は昭和13年のもの。鉄筋コンクリート造りであるものの、木橋の形をそのまま残していて、石の欄干、石畳、御影石の親柱、擬宝珠(ぎぼし)が特徴で平成元年(1989)に名古屋市の都市景観重要建築物に指定されています。

擬宝珠には「慶長7年」(1602)と刻まれていることから、慶長15年(1610)の堀川開削の8年前に清須で作られ、運ばれてきたということがわかります。現在は複製が取り付けられ、本物の擬宝珠は名古屋城に保管されています。



撮影協力
風茂本店

屋根神

その名のとおり屋根に祭られている神さまのことです。家屋の一階ひさし屋根や、軒下などに設置され、火伏の秋葉神社や厄よけの津嶋神社のほか、氏神(名古屋では熱田神宮)を祭り、町内や隣組といった地域の小組織で祭祀(さいし)を行います。住宅開発が進む現在では、屋根から下ろしている所もあります。

ちょっと気を付けながら散策すると、あちらこちらで見かけることができます。



② 四間道

名古屋に城下町ができるまで、尾張の中心地は清須でした。しかし、徳川家康の命で名古屋城築城とともに名古屋の街が作られ、清須から武士・町人・寺社などがそろって移転。これが有名な「清須越」です。城下町は計画的に作られ、身分により居住地を分割。堀川の両側には、水運を利用する商家が立ち並び、物資の積み降ろしを行うため商家の玄関は堀川側を向き、土蔵は家の裏手に建てられました。堀川に沿う形で土蔵が立ち並び四間道は、こうしてできたもので、昭和61年(1986)に名古屋市内並み保存地区に指定されています。

元禄13年(1700)の大火により、1640軒余りの町家が焼失したのを機に、尾張藩主の徳川吉通(よしみち)は、延焼を避けるため、堀川沿いの商家の裏道幅を4間(約7m)に拡張させたのが語源になったともいわれています。「湿気道」「四軒道」が由来との説もあります。

① 浅間神社



応永5年(1398)、三谷源太夫が富士塚町(現、東区)に勧請。慶長15年(1610)、名古屋城築城工事の普請場となったため、現在地に移りました。

祭神は木花開耶姫神(このはなさくやひめ)を祭り、正保4年(1647)に春日井郡河原村(現、新川町)星宮より勧請。境内には300年以上の樹齢を誇るケヤキがあります。

⑤ 富士浅間神社



⑥ 海福寺



寛永14年(1637)、玉峰山海福寺として創建。尾張藩祖義直は美濃路を通して鷹狩りに行き、その道中にここでよく小憩をしたとされます。

⑨ 八坂神社



元禄15年(1702)、現在地に遷宮。毎年5月の長寿延命と豊作祈願の提灯祭が有名です。その名の通り境内には沢山の提灯が飾られ、なかでも高さ約20mの竿に5段にわたって提灯を用いた「山竿提灯」は見物です。

榎権現と親しまれる神社。永禄3年(1560)の桶狭間の戦いの戦勝祈願に織田信長が太刀一口を寄贈したといわれています。また、藩政時代に美濃路を通る諸大名は必ず参拝したといわれています。

⑧ 白山神社



⑩ 八幡社

享禄2年(1529)、創建の神社。古来より鷹八幡と呼ばれ、藩祖義直も立ち寄っていました。以前は庄内川の堤防上にあり、治水の守護神でした。



⑪ 清音寺



治承3年(1179)、時の太政大臣藤原師長は、平清盛によって尾張国井戸田(瑞穂区)に流され、その地で村長の娘を寵愛しました。後に赦され都に帰るとき、形見に守本尊の薬師如来と白菊の琵琶を残しました。しかし娘は別れを悲しみ、琵琶池に身を投じたため、この地は琵琶島と命名され、娘の法号清音院から寺名が付けられました。

⑫ 黒龍神社



祭神は黒龍龍王大神。慶安年間(1648~51)の創建。

里人が五穀豊穡の祈願をしているとき、夢の中に龍神が現れたのを喜んで庄内川の中洲の中島に建立したといわれています。また、寛政元年(1789)には大雨のため橋が流失し、覚明行者(かくめいぎょうじゃ)が庄内川を渡れずに困っていると、金色の蛇が現れ、対岸まで導いたともいわれています。

庄内川の改修工事などにより、現在地に祭られるようになりました。



美濃路のシンボルマークは、平成30年(2018)に区民の投票によって選ばれました。美濃路に多く残る屋根神や、格子戸、道をつなぐ橋のイメージを合わせたデザインです。